

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
1	しゅくだいテラスについて。福祉会館は子どもには敷居が高いので、小学校の多目的室など通いやすいところにしてはどうか。	中山委員	通いやすいのは学校ではありますが、学校に行くのは厳しいけれども、他の場所であれば行けるといった事例もあり、そのような児童の救いにもなればと考えた結果、学校以外の場所とし、さらに、小学生対象の事業であり、小学校区毎に開設するとしたことから、各地域の福祉会館となりました。	いただいたご意見を踏まえ、今後も場所や時間、内容などを精査し、より良い事業となるよう検討してまいります。	こども教育
2	学校に行けない子どもであれば、学校が開いている時間にそこを開放してあげなければ、その子どもたちは行きづらいんじゃないかなと思う。今は3時から5時までですけど、もうちょっと早い時間に開放して居場所をつくってあげて、話を聞いてあげることが大事なんじゃないかな、と思う。	谷委員	学校に通っている子どもたちのなかにも悩みを抱えている子もいるので、そういう子どもたちも来られるようにと時間を設定しましたが、今後、改めて整理をさせていただければと思います。		
3	不登校になった原因、根幹がどこにあるかということで、その子が学校で決められた勉強は嫌だけれども、友達との接点は持ちたいから、放課後に友達が集まってくるのであれば行きたいという子もいるかもしれない。	彦坂委員			
4	しゅくだいテラスの参加人数について、多い地域と少ない地域があり、ゼロのところもあると聞いている。事業のチラシを学校で配付したり、ホームページで参加を呼びかけるなどが必要では。	谷委員	参加者が少ない点については、今年度も学校を通じてチラシ配付はしましたが、学校に充分趣旨を説明できていなかったことが反省点と考えております。令和4年度は学校との連携をさらに強化し、学校からこの子どうかな、といったご相談をいただけるような関係をつくっていききたいと思います。情報発信については、どういった取組なのかが分かるように、発信媒体もチラシだけではなく、ホームページやＳＮＳなど、目に触れやすい方法も検討してまいります。		
5	しゅくだいテラスについて、どういことをしているのか知りたいと思いホームページを見たがわからなかった。内容がわかればよいと思った。	前田委員			

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
6	コロナ禍でリモートワークになり保護者が家にいることが増えているが、子どもに当たったりする保護者がいたら困るなど。そういったところも目を向けたらいいんじゃないかと思う。	伊藤委員	(その場での回答無し)	(回答10のとおり)	こども教育
7	子ども食堂については知識がなかったが、今後、自分の地域でしようかなと思うときに、募集の仕方など、どうしたらいいのかなと思う。	平野委員	子ども食堂については、大阪市社会福祉協議会や都島区社会福祉協議会で支援をされており、問い合わせがある場合、区役所でもご案内しています。	子ども食堂を含む子どもの居場所については、大阪市社会福祉協議会主催の地域こどもネットワーク事業ホームページにおいて、支援者向けのメニューなど、さまざまな情報が紹介されています。 詳しくはこちらをご覧ください。 (参考) 地域こども支援ネットワーク事業ホームページ https://www.osaka-sishakyo.jp/project/child-network/joinnetwork/	こども教育
8	都島区役所では非常にたくさんの取組をさせていただいていると感じている。中でも、臨床心理士による福祉相談では、子ども本人だけではなく保護者のケアもされているところが非常に大切に、有効なんじゃないかと感じている。しかし、たくさんの取組をされていても、内容がどれだけ伝わっているのかと感じており、情報発信の媒体や手法の検討が大切なんじゃないかなと思う。相談内容とその対応、その結果どうなったのかなど、具体的な事例が見えるものであればよいと思う。	彦坂委員	(その場での回答無し)	いただいたご意見を踏まえ、区役所事業をより活用いただけるように、わかりやすい情報発信に努めてまいります。	こども教育
9	子どもの見守りというのは、小学生の登下校時などに不審者から守るなどの見守り隊の活動もある。植木が植わっている（周囲から見えないような）ところに子どもができるだけ行かないようになど、そのような取組も必要なんじゃないかと思う。	池田委員	(その場での回答無し)	(回答10のとおり)	こども教育
10	見守りというのは、虐待されているかもしれない、支援が必要かもしれない場合に、そこのお宅に行ってお世話するとか保護するといった、踏み込んだ動きというのはできない。でも、子ども食堂の取組は、見守りという形を取りつつも子どもの方から来てくれるため、見守りよりはちょっと子どもに踏み込める、話も聞けるんじゃないかなと思う。	伊藤委員	いろいろな見守りがありますが、虐待の通告であってもその家庭に踏み込むというのは難しいかと思います。学校でも家庭でもない別の場所、サードプレイスとして子どもの居場所を増やしていければと思います。また、これからつくられる子どもの居場所については、子どもの年齢に関係なく集まれる場となるのが理想かと思います。区役所、地域の方やNPO、多様な主体でそれぞれ何ができるかといった意見交換も来年度の部会でしていただければと思います。	(当日の回答のとおり)	こども教育

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
11	クラブ活動が今できなくなって、血気盛んな中学生の時期を何もせずに過ごすので、やっぱり中学生の居場所がないのはその子たちの人生に影響するのではないかと思う。区役所ではできないこともあるので、ここの議題として、町会などの地域でそういう場をつくったり、一般社団法人でそのような活動をしている者もいるので、ここでいろんなアイデアを出し合って一つでも実現できたらと思う。	江川委員	(回答10に含む)	(当日の回答のとおり)	こども教育